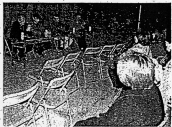


「街とアート」思い語る 青森港倉庫でシンポ



青森港中央ふ頭の倉庫で二十一日、まちづくりをテーマにしたシンポジウム「街とアート」(青森市主催)が開かれた。写真・芸術家、非営利組織(NPO)の活動家など三人のパネリストがそれぞれの立場から、芸術やまちづくりに対する思いを語った。

シンポジウムは、二〇〇一年完成予定の市芸術創作工房を市民に知ってもらうため、市内各地で開催しているイベントの一つ。八戸市の劇団、モレキネラー・シアターの豊島重之さんと県立美術館学芸員の黒岩敏介さん、あおむりNPOサポートセンター副理事長

の小山内誠さんがパネリストとして発言した。

豊島さんは植物の繁殖を例に「死にひんしているところ」に、初めて活性化する力が生まれる。市民の切実な思いがこぼしたイベントにつながった。小山内さんは「昨年むアートをテーマにイベントを開き、協力してくれる市民が増えてきた。これからも、まちづくりとアートの活性化に協力していきたい」と話した。